

ふるさとの昔話

ダンスパーティーを主催した

金正寺の猫



金正寺の山門

いつの頃か、平垣の金正寺に飼われていた年
とった大きな三毛猫は、近郷の猫をあつめて、
夜な夜なダンスパーティーを主催したという話
しが伝わっています。

平垣の不二山金正寺という古い寺
に、年とった大きな三毛猫がい
ました。その三毛がボスになって、
毎晩中島村の茅積場で、あたりの猫
をあつめ、ダンスパーティーをひら
いているのを、はっきり見たのは、
片宿のある百姓のおじいさんでした。

ある晩、風呂場の手拭いにどろが
ついており、かける場所も違ってい
ることに気づきました。

おじいさんは寝床へもぐって眠っ
たふりをしていますと、真夜中にな
って飼猫のタマが、手拭いを口にく
わえて出かけるではありませんか。

おじいさんは、不思議に思ってタ
マのあとをそっとつけてみました。
それとも知らない猫は、畑をぬけ、
田んぼ道を通って、中島村の茅積場
まで来ました。

そこには何十匹という猫が集まっ
て、てんでに手拭をあねさんかぶり
にして、後足で立ってゆかいそうに
おどっているではありませんか。

そのうち猫たちが一斉におどりを
やめて、大きな猫を迎えました。

手拭をイナセにかむって、ゆうゆ
うとやってきたのは、金正寺の猫だ
ったのです。

それからは、夜明けまで猫たちが
おどり狂ったということです。



平垣町
山本孝一さん
(75歳)

昔は、いろんな話しを親から子へ
語り聞かせてきたもんだ。この話し
もそうした一つとして、代々伝わっ
てきたのサ。

まあ特にいつの頃ということではな
ないが、何とおもしろい話しだねエ。

そういえばこの頃は、親が子供に
語り聞かせるということがないよう
だねエ。味気ないじゃないかね。

市立博物館 展示物

紹介

天間沢の人々 (ジオラマ)



縄文時代は数千年という長い期間
が続いただけに、市内に遺跡が多く
39カ所が確認されています。

遺跡の中で最も規模の大きいもの
は、鷹岡天間沢遺跡です。

この時代の人たちは、土器を作る
ことをおぼえ、土器で食物を煮炊き
したり、蓄えたりするようになりま
した。これらの土器は、のちには大
きなものが作られるようになり、豪
華な装飾をこらしたのものや、よく研
磨された精巧な土器もみられるよう



になり、日本
独特の文化を
創り出しまし
た。

当時の気候
は、温暖であ
ったといわれ
ています。

当時の人が使用した縄文土器



表紙のことは

市は、国際障害者年記念事業の一環として、
10月18日市役所駐車場で「福祉まつり＝ふれあ
い広場＝」を社会福祉協議会はじめ各団体と協
力して開きました。

好天にめぐまれた、この日、会場に設けられ
た福祉展、体験コーナー (アイマスク、車椅子)
などに、2万5,000人余の市民が訪れ、障害者と
健常者のふれあいを求め一日中賑わいました。